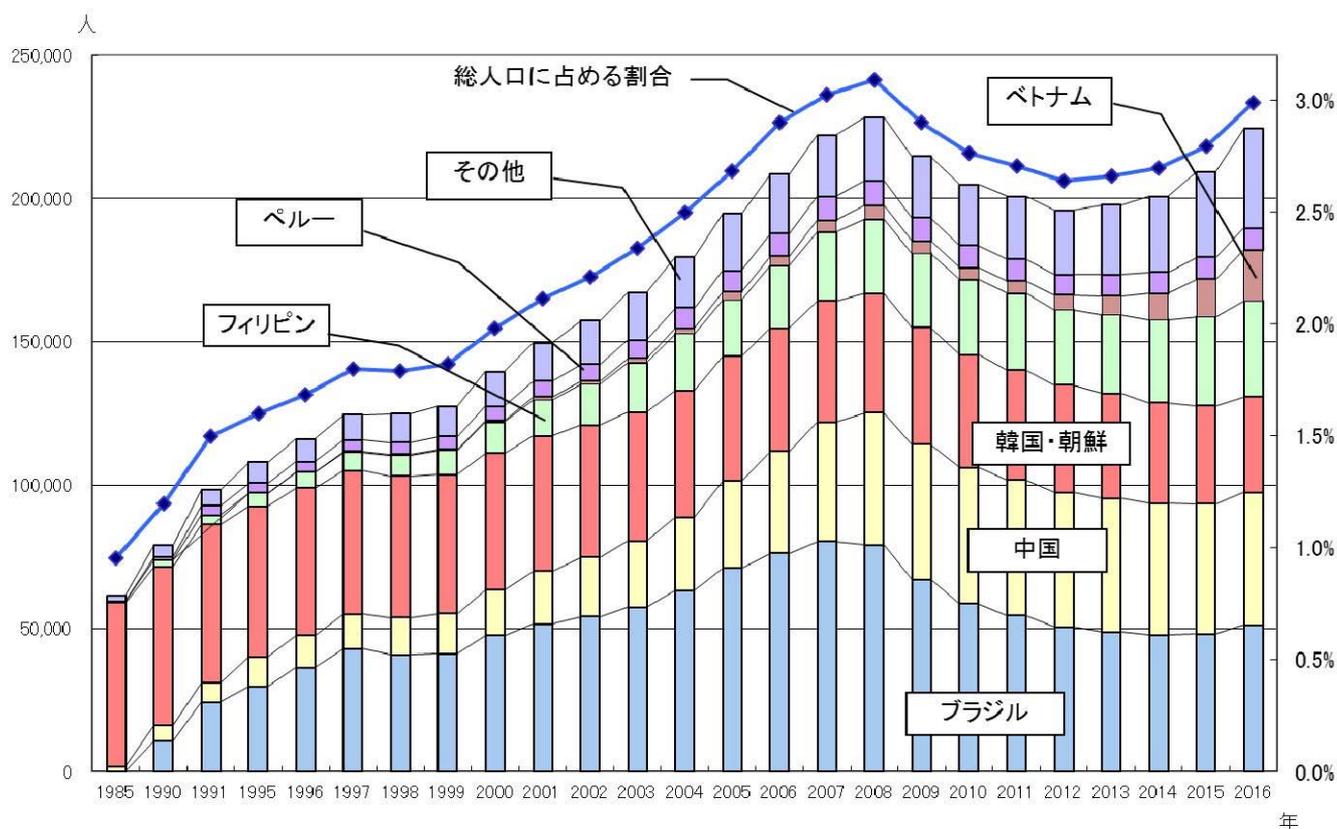


新あいち多文化共生推進 プラン(仮称)の策定について

プラン策定の背景

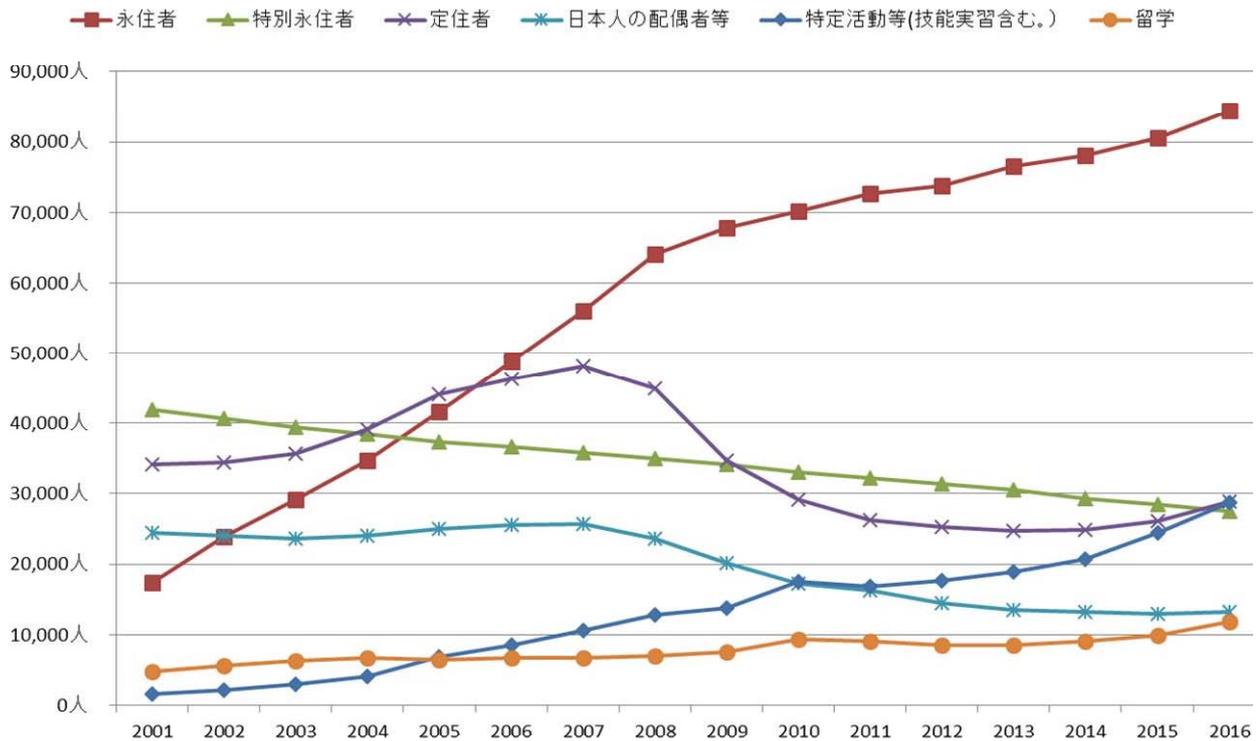
❖再び増加傾向に転じ、多国籍化もより一層進んできている

本県の外国人住民数は、平成20年までブラジル人を中心に右肩上がりに増え、その後の景気後退等により、減少したものの、平成25年からは、再び増加傾向に転じています。ブラジル人の減少傾向が続く間も、フィリピン人、ベトナム人等のアジアの人たちが増加し続け、多国籍化がより一層進んできています。



❖「永住者」が増え続け、「技能実習」「留学」等も増えている

今後も日本で生活していこうとする「永住者」の在留資格を持った外国人が増え続けています。その一方で、「技能実習」「留学」等が増えており、在留資格の多様化も進んでいます。



❖日本人県民の多文化共生に対する意識は進んでいない

在住期間の長期化、在住地域の散在化により、地域に外国人県民がいることが常態となっている中で、外国人県民が支援される側から支援する側になっている事例も散見されるようになってきています。しかし、その一方で、日本人県民の多文化共生に対する意識はあまり進んでいません。

Q 外国人が多いことについてどう思うか。

回	答	回答率
1	治安が悪化する恐れがあるので、望ましくない	30.9%
2	外国の言葉・文化・習慣を知る機会が増えるので、望ましい	29.0%
3	習慣や文化の違いから外国人とトラブルが起こる恐れがあるので、望ましくない	26.2%
4	地域で外国人と交流できるので、望ましい	24.0%
5	地域の経済的な発展の維持につながり、望ましい	21.8%
6	日本人の雇用を脅かしたり、低賃金化につながるおそれがあるので、望ましくない	8.6%

出典：平成28年度 県政世論調査

これまでの経緯

❖外国人県民の増加と定住化の進展【第1次プラン】

1980年代末、好景気で深刻な人手不足となり、外国人労働力全般に対する需要が高まりました。こうした外国人の雇用拡大を受けて、1989（平成元）年に出入国管理及び難民認定法（入管法）が改正されました。

この改正により、在留資格の中に、主に日系人が対象となる「定住者」資格ができました。この資格は、日本国内での活動が自由であることから、就労を目的として、多くの日系人が来日してきました。特に、モノづくりの盛んな本県では、日系ブラジル人を始めとした南米出身者が急速に増えていきました。

その後も、研修・技能実習制度などにより、外国人の**増加傾向は続いていくと予想される**一方で、来日した外国人の中には、滞在が長期化し家族を呼び寄せるなど**定住化が進みつつあり、日本で生まれ育ち仕事につく外国人が増えることが予想**されました。

また、1995（平成7）年1月17日に**阪神・淡路大震災**が発生し、外国人の方も多くの被害を受けました。この地震によって、日本に住んでいるのは日本語がわかる人ばかりではないということに気づかされ、**多言語化や多文化共生の必要性が認識**されるようになりました。

こうしたことから、2008（平成20）年3月に、**外国人を「ゲスト」としてではなく、ともに暮らし、地域をつくっていく「生活者」として、**様々な施策を体系的に展開するための「**あいち多文化共生推進プラン**」を初めて策定しました。



2008(平成20)年3月策定
【計画期間】
2008(平成20)年4月～
2013(平成25)年3月

❖外国人県民の多様化と永住化の進展【第2次プラン】

第1次プラン策定後、リーマンショックによる世界同時不況や2011（平成23）年3月に発生した東日本大震災により、外国人県民を取り巻く環境は厳しくなり、日系ブラジル人の減少に大きく影響を受ける形で外国人登録者数は減少していきました。

しかし、「永住者」の在留資格を取得する者は増加し続け、**永住志向の強い外国人県民が増**

加しました。また、ブラジル人が減る一方で、フィリピンを始めとするアジア圏出身者が増え、多国籍化が進展するとともに、高齢化や散在化により、国籍や年齢、居住地など様々な面から**外国人県民の状況は多様化**してきました。

一方、地域社会においては、日本人県民とのトラブルが減り、若者の中には、小中学生期に外国人の同級生を持っている場合も多く、外国人を身近に感じている日本人も増えてきました。さらに、**東日本大震災**では、多くの外国人が支援する側に参画していたことから、**地域づくりの担い手として、外国人の重要性が認識**されるようになりました。

こうした中、外国人が将来にわたって日本で生活していけるよう、**生活全般にわたる支援のさらなる充実**を図るとともに、**外国人県民も地域社会の担い手として活躍できる社会**をめざして「**あいち多文化共生推進プラン2013-2017**」を策定しました。



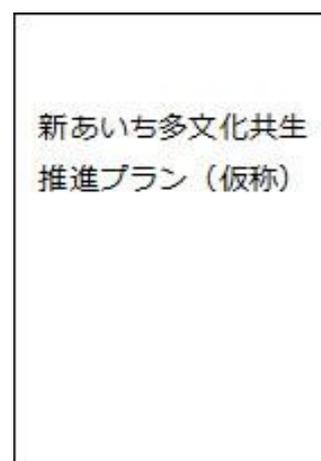
2013(平成25)年3月策定
【計画期間】
2013(平成25)年4月～
2018(平成30)年3月

❖新あいち多文化共生推進プラン（仮称）の策定【第3次プラン】

第1次・第2次プランに基づいて施策を実施してきた結果、本県の多文化共生施策は充実してきていますが、**教育や労働など依然として残っている課題**があります。また、**第一世代の高齢化など新たな課題**も出てきており、**ライフサイクル全般にわたっての支援**が必要となってきました。

一方、日本で育った**第二世代の外国人の若者たちが日本社会で活躍**する事例を目にすることも多くなりました。また、本県において、**熊本地震を契機に、外国人と日本人が一緒になって地域社会に貢献しようとする動き**も生まれました。

さらには、世界的な移民排斥の動きがある中で、国内においては、ヘイトスピーチ規制法が制定されるなど、国籍や民族などのちがいににかかわらず、**すべての県民が互いの文化的背景や考え方などを理解し、ともに安心して暮らせる地域づくり**が改めて求められています。



2018(平成30)年3月策定予定
【計画期間】
2018(平成30)年4月～
2023(平成35)年3月

こうしたことを踏まえつつ、第3次プランとなる「**新あいち多文化共生推進プラン（仮称）**」を策定します。

方向性（案）

❖ライフサイクルに応じた継続的な支援

外国人の定住化・永住化に伴い、各生活のステージにおいて、日本人県民と同様の課題が想定される中、各施策を個別に考えるのではなく、ライフサイクルに応じたつながりのある継続的な支援の検討を行っていきます。その際、多文化共生分野だけでなく、福祉分野等の他分野との連携も視野に入れていきます。



❖支援する側／支援される側の双方向の視点

外国人県民は支援される側としてだけではなく、自分の経験等を生かして新たに来日してきた外国人を支援することもあれば、高齢化の進んだ地域では担い手となることもあります。また、支援する側が、支援することによって得られるものも大きく、支援する側／支援される側といった固定的で二項対立的な視点ではなく、双方向の「お互いさま」の視点を持って施策を考えていきます。



❖外国人を受け入れている地域等への支援や働きかけ

外国人県民のいることが常態となってきましたが、外国人を受け入れる学校や地域等には依然としてとまどいがあるため、受け入れる側に対する支援も必要です。一方で、多文化共生に対する理解があまり進んでいない中、幅広い手法を活用するなど、わかりやすく多文化共生の意義や本県の施策の方向性・目標等を伝え、理解してもらえるよう働きかけていく必要があります。



策定プロセス

新「あいち多文化共生推進プラン（仮称）」の策定にあたり、3つのプロジェクトと関連事業を行い、今後、5年間の愛知県の多文化共生をデザインしていきます。

Project I 新あいち多文化共生推進プラン（仮称）検討会議

多文化共生に関わる各テーマの有識者を集め、プランの行動目標や施策の基本方向などについて検討を重ねます。【3回開催】

Project II あいち多文化共生タウンミーティング

幅広い県民の意見をプランに取り入れるために、タウンミーティングを開催します。
【7月15日（土）「防災・まちづくり」@岡崎 8月5日（土）「教育・子育て」@名古屋 9月2日（土）「労働・起業」@豊橋】

Project III 愛知県庁×名城高校♪多文化共生セッション

高校生と一緒に、愛知県の多文化共生を推進していくための方策やアイデアを考え、若い世代の意見をプランに盛り込んでいきます。
【講座・ワークショップ、発表会など。5月26日（金）から5回開催】

住民説明会

プランの案についてパブリックコメントを実施します。それに合わせ、プランの案をより理解していただくための住民説明会も予定しています。地域や学校、団体等へ伺って説明することも可能。2018年（平成30年）1月頃に開催する予定です。

<関連事業>

👉あいち外国人の日本語教育推進会議

今後の地域の日本語教育について検討を行い、新しいプランに反映させていきます。

👉多文化共生フォーラムあいち2017

今後の愛知県の多文化共生の方向を示すためのフォーラムを開催します。

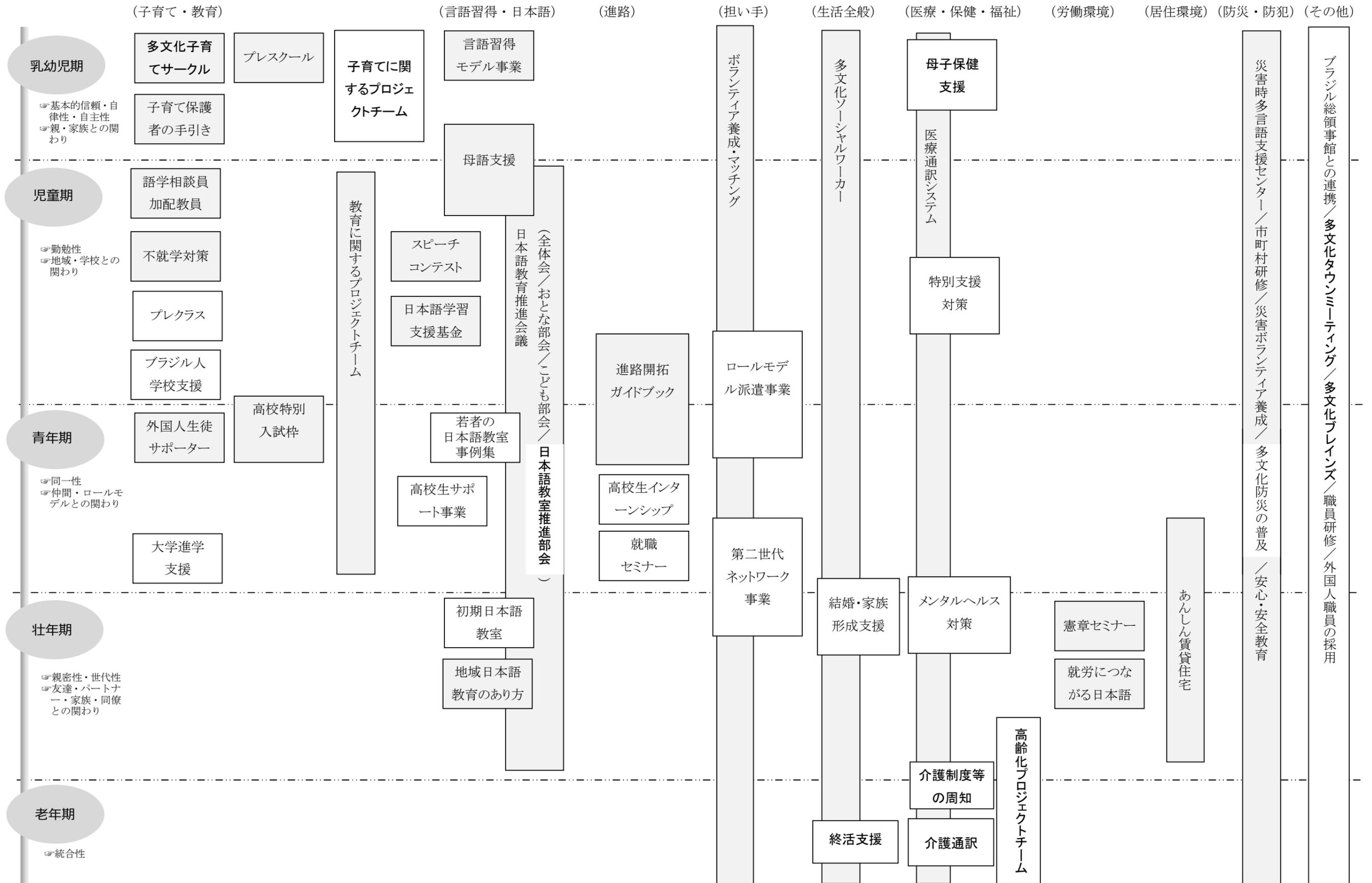
👉外国人県民あいち会議

外国人県民からの意見を直接伺い、その意見を新しいプランに取り入れていきます。

◎こうしたプロセスを見やすくするために、専用のウェブページを開設

<http://www.pref.aichi.jp/syakaikatsudo/project/top.html>

ライフサイクルに応じた支援（イメージ）



新あいち多文化共生推進プラン（イメージ）

はじめに

- 1 プラン策定の背景
- 2 経緯・趣旨
- 3 プラン策定の基本的事項
(1) 位置づけ (2) 策定方法 (3) 計画期間

プラン策定にあたっての基本的な考え方

- 1 多文化共生推進に対する基本的な考え方
(1) 多文化共生推進の必要性
(2) 多文化共生推進の意義
- 2 プラン策定の基本的な考え方
(1) プランの目標
①基本目標
②施策目標
(2) プランの対象者
(3) プランの方向性
①ライフサイクルに応じた継続的な支援
②支援される側／支援する側の双方向の視点
③外国人を受け入れている地域等への支援や働きかけ

推進施策の方向

- 1 推進施策のポイント
- 2 推進施策
(1) ライフサイクルに応じた継続的な支援
＜ライフサイクル図＞
①乳幼児期（子育て／言語習得／母子保健）
②児童期（教育＜小・中学校＞／日本語／進路／ロールモデル／特別支援）
③青年期（教育＜高校・大学＞／日本語／進路／第二世代）
④壮年期（労働環境／日本語／家族形成／メンタルヘルス／居住環境）
⑤老年期（介護／終活）
⑥年代共通（医療／防災・防犯／その他）
(2) 支援する側／支援される側の双方向の視点
(3) 外国人を受け入れている地域等への支援や働きかけ

＜施策体系図＞

- 3 プランの推進に向けて
(1) 各主体の役割の明確化
(2) プランの進行管理と適切な見直し
(3) 進捗状況の公表
- 4 具体的な施策一覧
- 5 策定過程

あいち多文化共生推進プラン 2013-2017

1 プラン策定に関する基本的な考え方

- (1) プラン策定の背景
- (2) プラン策定の趣旨
- (3) プランの性格
- (4) プランの策定方法

2 多文化共生推進に関する基本的な考え方

- (1) 多文化共生推進の必要性
- (2) 多文化共生推進の意義
- (3) プランの目標
 - ①基本目標
 - ②施策目標

3 推進施策の方向

<施策体系図、施策のポイント>

- (1) 施策目標Ⅰ 誰もが参加する地域づくり
 - ①子どもの教育の充実 ②日本語学習や多言語による情報提供の充実
 - ③就業・起業に対する支援の充実 ④様々な担い手の対等な連携・協働の推進
 - ⑤外国人県民の施策・企画への参加の促進 ⑥多文化共生の担い手の育成
- (2) 施策目標Ⅱ 多文化共生の意識づくり
 - ⑦多文化共生に対する理解の促進 ⑧外国人県民と日本人県民の交流の推進
 - ⑨継続的・広域的な制度・仕組みづくり ⑩人権尊重の意識づくり
- (3) 施策目標Ⅲ 誰もが暮らしやすい地域づくり
 - ⑪相談体制などの充実 ⑫医療・保健・福祉の充実 ⑬労働環境の改善
 - ⑭居住環境の改善 ⑮防災・防犯対策などの充実

4 プランの推進に向けて

- (1) 多文化共生推進主体の役割の明確化
- (2) 多文化共生推進主体の連携・協働の強化
- (3) プランの進行管理と適切な見直し

5 具体的な施策

- (1) 施策目標Ⅰ 誰もが参加する地域づくり
- (2) 施策目標Ⅱ 多文化共生の意識づくり
- (3) 施策目標Ⅲ 誰もが暮らしやすい地域づくり